

Title	小特集：「いのち」の歴史学に向けて：われわれはいまどんな時代に生きているのか
Sub Title	序 Preface
Author	高草木, 光一(Takakusagi, Koichi)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2009
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.102, No.1 (2009. 4) ,p.17- 20
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集 「いのち」の歴史学に向けて：われわれはいまどんな時代に生きているのか
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20090401-0017">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20090401-0017</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 小特集：「いのち」の歴史学に向けて

——われわれはいまどんな時代に生きているのか——

ベトナム戦争報道写真家として著名なだけでなく、バイオエシックス、ホスピスの先駆者でもあった岡村昭彦（1929–85 年）は、既に 1980 年において、同時代を「遺伝子操作が可能な時代」と捉え、その時代に必要なことは「人権意識」であると看破している。

それからはやくも 30 年近くが経過し、生命科学、先端医療は飛躍的に発展した。いま ES 細胞や iPS 細胞が夢の再生医療を約束するものであるように語られている。仮にその夢が現実化したとすれば、損傷した臓器や組織はつねに交換可能となり、従来の身体観、生命観は大きく揺れ動くことになるだろう。しかし、いっぽうにおいて確実に言えるのは、そうした技術が万人の手に届くことはありえないということである。「後期高齢者医療」のあり方をめぐって迷走が続く、逼迫した財政状況のなかに生きる者として、夢を見るまえに、まずは「棄てられるいのち」のほうにこそ注目する必要があるだろう。

では、この「操作可能な時代」をわれわれはどのように把握し、どのように対処すべきなのか。それが、今回のコンファレンス『「いのち」の歴史学に向けて——われわれはいまどんな時代に生きているのか』の課題であり、したがって同じテーマをもつ本小特集の課題である。

1960 年代は、ベトナム戦争で枯葉剤が遺伝子を直撃し、胎児性水俣病が確認され、「いのちへの侵犯」が顕在化するいっぽうで、DNA 二重螺旋構造が脚光を浴び、近代的なホスピスが試みられ、あるいは心臓移植手術が行なわれ、「いのちの救済」が新たな段階を迎える時期でもある。この 1960 年代以降の「現代史」を、「いのち」の観点から書き換えていく試みを、われわれは「いのちの歴史学」と名づけ、そこへ向かう第一歩としてこの一連の企画は立てられた。

本小特集で掲載される論文も、このような学際的な視点を重視し、意識的に異なる分野から集められている。直接的に 1960 年代以降を扱っていない論文もあるが、「いのちの歴史学」への問題関心を重層的に示すためにあえて迂回的方法がとられていると考えていただきたい。

本小特集の論文とコンファレンスの報告は同じものではない。コンファレンスの詳細は、次に掲げる「日程（プログラム）」を参照していただきたい。また、レセプションにおける田中明名誉教授の「乾杯の辞」を併せてここに収録した。

なお、2009年6月に岩波書店から刊行予定の高草木光一編『連続講義 「いのち」から現代世界を考える』に、本コンファレンスの内容の一部が収録されることを付け加えておく。

高草木 光 一  
(経済学部教授)

## 日程（プログラム）

2008年5月24日（土）

午後3時～午後4時30分

報告者：小川康「チベット医学と現代医学」

討論者：皆吉淳平・土屋敦

午後5時～午後7時30分 レセプション（CHINA EXPRESS 杏花園）

挨拶：飯田裕康「18世紀イギリスからみた『いのち』の歴史学」

2008年5月25日（日）

午前9時～午前10時

報告者：マリア・サキム「ウイグル医学と現代医学」

討論者：槇佐知子

午前10時～午前11時30分

報告者：清水透『いのち』の歴史学とオーラル・ヒストリー」

高草木光一「19世紀フランス社会主義思想史から『いのち』の歴史学へ」

午後1時～午後3時30分

報告者：山口研一郎「医学の歴史と『いのち』の歴史学」

島蘭進「宗教学からみた『いのち』の歴史学」

最首悟「水俣問学と『いのち』の歴史学」

午後4時～午後7時

総括討論「われわれはいまどんな時代に生きているのか」

## 会場：

西校舎 501 番教室（5月24日），東館 8 階会議室（5月25日）

## 参加者：

\*肩書きはすべて当時

小川康（チベット医学暦法学大学附属病院医師）

皆吉淳平（芝浦工業大学工学部講師）

土屋敦（東京大学大学院 G-COE「死生学の展開と組織化」特任研究員）

マリア・サキム（慶應義塾大学経済学部特別招聘准教授，元新疆医科大学副教授）

槇佐知子（日本伝統医療科学大学院大学講師）

清水透（慶應義塾大学経済学部教授）

高草木光一（慶應義塾大学経済学部教授）

山口研一郎（医師，現代医療を考える会代表）

島蘭進（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

最首悟（和光大学名誉教授）

（以上，報告者・討論者，プログラム順）

飯田裕康（慶應義塾大学名誉教授）  
上野重喜（NHK ラジオディレクター）  
大村次郷（フォトジャーナリスト）  
奥村勇斗（慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程）  
小田なら（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科修士課程）  
迫田朋子（NHK 制作局チーフディレクター）  
田中明（慶應義塾大学名誉教授）  
田中智彦（東京医科歯科大学教養部准教授）  
長沖暁子（慶應義塾大学経済学部准教授）  
中川道夫（フォトジャーナリスト）  
玄順恵（文筆家・画家）

（以上，参加者，50 音順）